

# 一般社団法人日本ゴールボール協会

## 中・長期基本計画

### ■ 理念

私たち日本ゴールボール協会は、ゴールボール競技を通じて障害の有無を越え交流しあい、スポーツ・文化活動に参加する機会を作り出すことで、共生社会（ノーマライゼーション社会）の実現に貢献することを協会の基本理念とし、すべてのステークホルダーに、新たな価値を提供します。

### ビジョン

2020年以降もゴールボールが国内で発展し認知され、すべてのステークホルダーに理解され続ける中央競技団体を目指す。

### ミッション

ゴールボールを更にアスリートスポーツとして発展させ、一つのスポーツにとどまらず、パラリンピックを契機に、視覚障害のある少年少女たちの目標となる人材育成をおこなう。

### ■ 中・長期 10 指針

1. 法令遵守  
活動の実施及び活動費の使用に当たり、法令やその他諸規程を遵守するとともに、体制を整備し、高い倫理観を持って行動する。
2. 公正な会計  
透明性ある事業運営として、財務、経理を適正に行い、公正な会計原則に則って事業を実施する。
3. 倫理  
社会倫理に即し、本事業並びに関連する組織及び個人の名誉・信用を損なわないよう行動する。  
中・長期基本計画推進に係る活動や決定事項に対して、私的な問題や利害関係を持ち込まない。
4. 事業活動  
国内ゴールボールの発展と普及啓発、日本代表の国際派遣、2020年東京オリンピック・パラリンピックレガシーを次の世代へ繋げる。
5. 情報管理  
中長期基本計画に係る情報については、個人情報等に十分留意し、厳重に管理し適切に取り扱う。  
目的に反する使用や第三者への漏洩は行なわない。
6. 現場の規律  
ハラスメントや人種差別、スポーツ指導における暴力などを許さず、風通しが良く働きやすい現場環境づくりに努める。
7. 不正行為の防止  
ドーピング、八百長、賭博等の不正行為の防止に努める。
8. 未知なる力  
視覚障がいの固定観念を壊し、未来を創る。
9. 社会貢献と参画  
共生社会の実現を目指し、スポーツと教育を発展させる。
10. グローバル  
国際派遣事業を通じて、人種、宗教、言語を超えた国際人の育成とブラインドスポーツの発展に寄与する。  
上記の指針に反する行動が確認された場合は、関係者間で早急に事実関係の確認を行い、原因究明と再発防止に向けた対策を講じる。

## ■ 国内大会事業計画・審判育成計画

### ■ 国内大会事業計画

東京パラリンピックを契機に、競技の更なる普及を見据えて、多くの方に楽しんでいただける大会開催を目指す。また、競技人口が増えることを期待し、主催大会を増やし、ステップアップ出来る大会を提供していく。そのため、3つの主催大会を定着させる。

1. 公式競技大会…日本ゴールボール選手権大会、男子予選大会、女子予選大会
2. 競技大会…ゴールボールトライアルトーナメント東日本、ゴールボールトライアルトーナメント西日本
3. 普及大会…チャレンジゴールボール大会

### ■ 審判員育成計画

国内審判員制度を再構築し、新たな国内レフェリーの養成と、現任レフェリーのレベルアップに取り組む。また、その指導者の養成にも力を注ぐ。

国際資格を持つレフェリーについては、更なるレベルアップに取り組むと共に世界で認められるレフェリーの養成を目指す。

## ■ 日本代表・男女強化事業計画

### ■ 男子

#### 【強化計画】

#### (1) 短期計画(1年～2年)

##### <東京パラチーム>

2021年 国際大会等での海外国との対戦機会を確保し、強化につなげる。

##### <ユースチーム>

2020年 ユース選手の発掘活動を行う。

2021年 強化合宿を実施し、アジアユースパラゲームス(12月)へ出場する。

#### (2) 中長期計画(3年～5年)

4年を1つのサイクルと考え、2024年、2028年に向けての準備計画を考える。

4年、8年後の若手選手が主力メンバーになるよう強化する。

#### ◆ 2022年

- ・アジアパラゲームス                      ベストメンバーを中心としたチームに若手選手を含めて構成。
- ・IBSA 世界選手権                        ベストメンバーで出場し、メダル獲得、パリパラリンピック大会出場権獲得。

#### ◆ 2023年

- ・国際大会への積極的な派遣を行い、国際大会で力を発揮できる選手の強化を図る。
- ・ワールドユースパラゲームス

#### ◆ 2024年

- ・パリパラリンピック大会              メダル獲得。

#### 【目標】

継続してユース選手・若い選手の発掘育成を積極的に行う。

2023年には強化スタッフ内にユースチーム担当を配置し、ユースチームとして活動できるようにする。

## ■ 女子

### 【強化計画】

東京 2020 大会においてメダル獲得すべく、強化戦略を実行し、最大限のパフォーマンスを発揮できる環境づくりをおこない、味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点に強化活動を遂行していく。

東京パラリンピックのレガシーを継承し、年1回国内事業として NF 主催の国際大会を実施していく。

#### ◆ 目標

2024 年パリ大会はメダル獲得を目標とする。

##### ➢ 2024 年までの主要大会における目標

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| ・2021 年アジアユース大会       | 金メダル獲得            |
| ・2021 年アジアパシフィック選手権大会 | 金メダル獲得            |
| ・2022 年世界選手権大会        | メダル獲得およびパリ大会出場枠確保 |
| ・2022 年アジアパラゲームス      | 銀メダル獲得            |
| ・2023 年アジアパシフィック選手権大会 | 金メダル獲得            |

※2024 年パリ大会は、2020 年の代表選手のうち、30 代・40 代の選手を除く選手を柱とし、そこに強化したユース世代を追加したチーム編成になると考えられる。2022 年のアジアパラゲームスで銀メダル以上としたのは、若手（ユース・育成世代）を派遣し、2024 年大会に向けた強化を目的としているためである。

#### ◆ 戦略

- ・ユース世代、シニア世代の一貫指導体制
- ・月 10 日の国内合宿および年 2 回の海外派遣、国際大会出場
- ・ユース世代の海外遠征への派遣
- ・次世代アスリート(J-STAR プロジェクト)の発掘・育成

### 【指導者養成】

中長期の計画として、年 2 回コーチ養成講習会を実施し、その後、ライセンス制度を確立する。

準備段階として 2021 年に技術部と連携し、各都道府県障がい者スポーツ協会および盲学校体育連盟を通じ指導者を募集しつつ、2022 年には第 1 回コーチ養成講習会を実施し、その後、養成したコーチにライセンスを発行していく。

ライセンス制度の構築後は毎年ライセンスの更新講習を実施し、ナショナルコーチ及び指導者研さん活動を充実させ、2022 年には e ランニングを用いた教材提供をおこない、ジュニア世代からの育成につなげる為に、幅広い視野を持った人材育成を行う。

### 【トレーナー部会】

上記に示す方針と共に、トレーナー部会の拡充に努め、2022 年には、指導者養成講習会に連動させたトレーナー養成も行いながら、ブラインドスポーツに精通したトレーナー育成を行う。

## ■ 普及・啓発事業計画

### ■ 盲学校体育連盟等連携事業の継続

#### ➢ 経緯

ゴールボール未開拓な地域を主として、盲学校体育連盟等へゴールボールの普及・啓発事業を実施してきた。

#### ➢ 実績

2016 年度から 2019 年度まで(4 力年)15 校、(20 年度、9 月現在)1 校、計 16 校。

#### ➢ 中長期計画

平均 1 年間で 4 校実施している事から、今後も年間 3 校を目標に開催。

➤ 課題

四国地区へのアプローチ。盲学校では「中国・四国ブロック」という区分けをしているが、現実的には中国地区と四国地区を分けて競技普及に取り組む必要がある。また、ゴールがある学校と、こちらから搬入できる学校、そして搬入ができない学校に差が生じているので、いつでもゴールがある状態で競技体験ができる環境を整えたい。

■ **ゴールボールキャンプの毎年開催**

➤ 経緯

ゴールボールに特化した選手の発掘事業として、技能の向上、交流を図ってきた。

➤ 実績

盲学校連携事業を通じて生徒や教職員が参加した学校は 21 校。

➤ 中長期計画

ユース選手の発掘にも繋がっているので、毎年 12 月に岐阜県(時期と場所)を決めて開催したい。

➤ 課題

全国盲(視覚支援)学校においてゴールボールが認知されつつあることを実感しているが、継続的に競技者、レフェリー、オフィシャルスタッフの基本動作等、ノウハウを伝えて行くにはテキストまたは動画集が必要だと感じる。

■ **チャレンジゴールボール大会の毎年開催**

➤ 経緯

選手だけではなく、審判・オフィシャルも参加者で協力して行い、障害の有無に関わらず交流を図り、ゴールボールを楽しめる初心者大会として 3 年目を迎えている。

➤ 実績

「北海道・東北地区」「北陸地区」「関東地区」「中・四国地区」に加え、20 年度は「東海地区」「近畿地区」の開催を計画。

➤ 中期計画

21 年度は「九州地区」、22 年度には「四国地区」での開催を目指したい。

➤ 長期計画

25 年度は「近畿大会」での開催を目指したい。

➤ 課題

まずは 3 年後を目指し、人員が充実している関東大会から、地元のチームやスタッフからなる実行委員会組織を立ち上げ、日本ゴールボール協会主催ではなく、地区大会として実行委員会主催としたい。

上記を通じて札幌、青森、山形の 3 校で国内予選大会に参加するチームが現れ、今後の普及・啓発は、地方に力を入れることが重要だと考える。

近畿盲学校体育連盟が 21 年度からゴールボール大会を実施(第 1 回は滋賀盲)する。これにより、開催が予想されるオフィシャルクリニックに審判部の協力を仰ぎたい。

来年からの 5 年間は、兵庫から京都、滋賀、岐阜とこのラインを重点地域にして積極的に協会主催大会の誘致を行い、レフェリーやオフィシャルスタッフ養成を積極的に行うことで、関東に次ぐ拠点を作りたい。

## ■ マーケティング計画

### (1) 中期

#### ■ マーケティング構造の一新

現行のオフィシャルパートナープログラムから、NF 協賛＋日本代表協賛と大会協賛の2種類に分類する。

また、NF 協賛＋日本代表協賛については年間のプログラムとするため、契約期日や契約条件、契約内容の統一を図っていく。

更に、協賛金を増やせるようパートナー企業からのヒヤリングを実施し、情報収集に努め様々なプロモーション企画などを提案していく。

強化方針にも示されているように、国内事業の一つとして国際大会を年間ベースで開催できるように関係機関と連携を図りながら組織体制を構築していく。

### (2) 長期

#### ■ 日本ゴールボールリーグの開設

選手に所属クラブチームを明確にさせていただく。

そのうえで全国を8地区程度に分割し、その地区ごとに複数回のリーグ戦を実施。

その地区の勝利チームが全国 No.1 を決める大会に出場。(関東圏と関西圏の隔年開催も視野に入れる。)

※日本選手権大会との棲み分けは必定。

※現在の日本選手権大会の開催形態を変更しリーグ No.1 チームを日本選手権大会の優勝チームとする方が権威的かも。

※逆に、トーナメント戦による勝ち上がり大会の新設などの可能性を探ることも。

※日本選手権覇者とリーグチャンピオンとの間で、新の日本一決定戦も開催したい。

#### ■ 自主財源の確保に向けて

観戦チケットの有料化

日本ゴールボールリーグ(リーグ戦)のリーグパートナー制度の導入

日本選手権大会(トーナメント戦)のリーグパートナー制度の導入

## ■ 財務基本計画

2020 が終わると様々な助成金の減額があるため、助成金に頼らなくても協会運営が出来るように広報に力をいれ、マーケティングで、現在のパートナーに継続して応援してもらえるようにすることと更なるパートナー企業を 3 年で少なくとも 1 社は増やしていくとともに、トップパートナーを招致していく。

体験会などを増やしそこでの収入を増やし、代表選手や監督の講演会も増やして選手も協会も少しずつでも潤うようにしていく

大会運営でも観客動員ができるようにして今までは無料だったものを 1 日 500 円(税込み)か 1000 円(税込み)でチケット代金を徴収する

### (1) 長期

目標パートナー企業をどんどん増やして助成金無しで運営・理事・スタッフも給与をもらえるように目指す。

クラウドファンディングで協会資金を得ることも一つの方法として模索していく

ゴールボールリーグの開設に伴い地区のリーグに付くパートナー企業を募集し、サッカーリーグのように企業チームを作ってそれをまとめるのがこの協会になり、リーグチームから会費を集めるなど。

### (2) 中長期

#### ■ 独自財源の確保

- ・正会員費、チーム登録料、審判講習費など登録関係の料金 UP
- ・簡易な体験会、正規な体験会、有料講演会の実施数増加
- ・映像メディアの有効活用
- ・Web メディアの有効活用
- ・選手マネージメント部門の立ち上げ
- ・ある程度人気が出てくれば、グッズ販売、ゲーム制作なども実施